

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月13日
【四半期会計期間】	第83期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	石井食品株式会社
【英訳名】	Ishii Food Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 石井 智康
【本店の所在の場所】	千葉県船橋市本町二丁目7番17号
【電話番号】	047(435)0141(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部 マネージャー 村上 樹生
【最寄りの連絡場所】	千葉県船橋市本町二丁目7番17号
【電話番号】	047(774)8748
【事務連絡者氏名】	経理部 マネージャー 村上 樹生
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第82期 第3四半期 連結累計期間	第83期 第3四半期 連結累計期間	第82期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	7,161,989	7,931,489	9,549,641
経常利益 (千円)	105,133	536,558	256,221
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	87,064	306,152	308,899
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	182,765	403,268	369,589
純資産額 (千円)	2,689,564	3,172,825	2,876,388
総資産額 (千円)	7,014,319	7,736,573	6,707,929
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	5.16	18.18	18.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.3	41.0	42.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	245,761	842,055	341,446
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	239,736	297,363	545,773
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	130,625	116,977	125,422
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,160,066	2,372,225	1,944,510

回次	第82期 第3四半期 連結会計期間	第83期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	11.91	6.92

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限の緩和が一層進み、経済活動の正常化による個人消費持ち直しの動きが見られました。しかしながら、長期化するウクライナ情勢及び緊迫化する中東情勢を背景とした資源・資材価格の高騰やエネルギー価格の高止まりが続いているほか、物価上昇や為替変動、世界的な金融引締めによる景気への影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、昨年10月に実施した一部商品の価格改定から1年経過した当第3四半期におきましても、積極的な営業活動や根強いファンに支えられ売上高は好調に推移いたしました。主力商品であるミートボール等食肉加工品につきましては、季節や時機に合わせた営業活動に加え「イシイのミートボール×うたのおねえさん 小野あつこさん」お料理応援キャンペーンをはじめとした施策の展開により売り場を確保・活性化することができたほか、各種プライベートブランド商品も堅調に推移したことで売上高が増加いたしました。地域商品につきましては、各地域の旬の素材を活かしたハンバーグシリーズを中心に、上期に拡大した商品取扱店及び売り場を維持することにより売上高は堅調に推移しました。一方で、正月料理につきましては、年末年始におけるライフスタイルの多様化への対応を試みたものの、原価高騰による価格上昇が影響し売上高は減少となりました。

また、販売費及び一般管理費につきましては、持続的な組織力向上を実現するために必要な人材の採用及び賃金上昇の気運や生活防衛の観点から2年続けてベースアップを実施したことにより人件費が増加しております。一方で、水道光熱費及び燃料費につきましては依然高騰しているものの、前年同時期の単価比較では下落に転じたこと及び使用量削減に取り組んだことにより減少いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は79億31百万円（前年同期比7億69百万円増）となり、売上総利益は28億34百万円（前年同期比6億26百万円増）となりました。販売費及び一般管理費は23億28百万円（前年同期比2億5百万円増）となり、5億6百万円の営業利益（前年同期比4億21百万円増）となりました。また、経常利益は5億36百万円（前年同期比4億31百万円増）となりました。これに特別利益、特別損失及び法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億6百万円（前年同期比2億19百万円増）となりました。

製品別業績の概況は、次のとおりであります。

（単位：千円）

製品別売上高	前第3四半期連結累計期間 (2022.4.1～2022.12.31)		当第3四半期連結累計期間 (2023.4.1～2023.12.31)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
		%		%		%
食肉加工品 (ハンバーグ・ミートボール他)	5,957,338	83.2	6,772,669	85.4	815,330	113.7
惣菜	482,923	6.7	453,435	5.7	29,488	93.9
正月料理	299,541	4.2	264,649	3.3	34,891	88.4
地域商品	226,754	3.2	263,289	3.3	36,534	116.1
非常食	132,268	1.8	107,964	1.4	24,303	81.6
配慮食(食物アレルギー・減塩他)	36,776	0.5	32,983	0.4	3,792	89.7
その他	26,386	0.4	36,497	0.5	10,110	138.3
合計	7,161,989	100.0	7,931,489	100.0	769,500	110.7

財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は77億36百万円(前連結会計年度末比10億28百万円増)となりました。主な要因は、現金及び預金の増加4億27百万円、売掛金の増加4億30百万円、無形固定資産の増加48百万円、投資有価証券の増加85百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は45億63百万円(前連結会計年度末比7億32百万円増)となりました。主な要因は、買掛金の増加3億78百万円、未払費用の増加2億71百万円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は31億72百万円(前連結会計年度末比2億96百万円増)となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上3億6百万円、配当金の支払50百万円、その他有価証券評価差額金の増加58百万円であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は23億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億27百万円の増加となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は8億42百万円(前年同期は2億45百万円の増加)となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上、減価償却費の計上、売上債権の増加、仕入債務の増加であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は2億97百万円(前年同期は2億39百万円の減少)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出、無形固定資産の取得による支出であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は1億16百万円(前年同期は1億30百万円の増加)となりました。主な要因は、自己株式の取得による支出、短期借入れによる収入、短期借入金返済による支出、配当金の支払額であります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

また、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの会社の支配に関する基本方針については重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は15百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	65,000,000
計	65,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2024年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,392,000	18,392,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は、100株 であります。
計	18,392,000	18,392,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日	-	18,392,000	-	919,600	-	672,801

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,514,900	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 16,866,100	168,661	-
単元未満株式	普通株式 11,000	-	-
発行済株式総数	18,392,000	-	-
総株主の議決権	-	168,661	-

（注） 単元未満株式には、当社所有の自己株式97株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
石井食品株式会社	千葉県船橋市本町二丁目7番17号	1,514,900	-	1,514,900	8.24
計	-	1,514,900	-	1,514,900	8.24

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、千葉第一監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,944,510	2,372,225
売掛金	1,414,360	1,844,840
商品及び製品	94,719	110,085
仕掛品	15,031	9,584
原材料及び貯蔵品	172,694	208,070
その他	78,472	51,230
流動資産合計	3,719,789	4,596,036
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	466,063	453,221
機械装置及び運搬具(純額)	492,024	528,196
工具、器具及び備品(純額)	26,765	23,799
土地	809,029	809,029
リース資産(純額)	17,028	23,556
建設仮勘定	867	17,408
有形固定資産合計	1,811,779	1,855,211
無形固定資産	382,972	431,866
投資その他の資産		
投資有価証券	507,977	593,682
繰延税金資産	49,552	23,912
その他	281,058	281,065
貸倒引当金	45,200	45,200
投資その他の資産合計	793,388	853,459
固定資産合計	2,988,140	3,140,537
資産合計	6,707,929	7,736,573
負債の部		
流動負債		
買掛金	325,290	704,136
短期借入金	1,900,000	1,900,000
未払費用	623,265	894,390
未払法人税等	80,030	195,919
賞与引当金	81,878	-
その他	183,795	206,520
流動負債合計	3,194,260	3,900,966
固定負債		
リース債務	9,843	18,365
退職給付に係る負債	603,046	620,976
資産除去債務	22,990	23,009
その他	1,400	430
固定負債合計	637,280	662,782
負債合計	3,831,541	4,563,748

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	919,600	919,600
資本剰余金	672,801	672,801
利益剰余金	1,613,259	1,868,781
自己株式	310,806	367,007
株主資本合計	2,894,854	3,094,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90,063	148,540
退職給付に係る調整累計額	108,530	69,890
その他の包括利益累計額合計	18,466	78,649
純資産合計	2,876,388	3,172,825
負債純資産合計	6,707,929	7,736,573

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	7,161,989	7,931,489
売上原価	4,953,897	5,096,861
売上総利益	2,208,091	2,834,628
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	525,413	541,000
退職給付費用	55,649	58,376
支払手数料	267,627	307,891
運搬費	460,701	466,543
販売促進費	60,540	68,936
その他	753,578	885,764
販売費及び一般管理費合計	2,123,511	2,328,514
営業利益	84,579	506,114
営業外収益		
受取利息	7	133
受取配当金	6,482	7,295
廃油売却益	26,783	25,161
助成金収入	1,157	671
その他	8,046	9,306
営業外収益合計	42,478	42,567
営業外費用		
支払利息	6,069	6,084
棚卸資産廃棄損	14,295	5,909
その他	1,559	128
営業外費用合計	21,924	12,123
経常利益	105,133	536,558
特別利益		
固定資産売却益	9,078	-
受取保険金	49,729	11,324
特別利益合計	58,808	11,324
特別損失		
固定資産処分損	2,442	2,435
減損損失	3,076	25,684
災害による損失	16,551	-
特別損失合計	22,071	28,119
税金等調整前四半期純利益	141,870	519,762
法人税等	54,805	213,610
四半期純利益	87,064	306,152
親会社株主に帰属する四半期純利益	87,064	306,152

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	87,064	306,152
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57,303	58,476
退職給付に係る調整額	38,397	38,639
その他の包括利益合計	95,701	97,116
四半期包括利益	182,765	403,268
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	182,765	403,268
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	141,870	519,762
減価償却費	140,867	173,124
賞与引当金の増減額(は減少)	82,212	81,878
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	60,466	56,569
受取利息及び受取配当金	6,490	7,428
支払利息	6,069	6,084
助成金収入	1,157	671
固定資産売却損益(は益)	9,078	-
固定資産処分損益(は益)	2,442	2,435
減損損失	3,076	25,684
受取保険金	49,729	11,324
災害による損失	16,551	-
売上債権の増減額(は増加)	563,062	430,479
棚卸資産の増減額(は増加)	93,416	45,294
仕入債務の増減額(は減少)	368,681	378,846
未払法人税等(外形標準課税)の増減額 (は減少)	6,348	7,360
未払消費税等の増減額(は減少)	13,556	26,373
その他	303,615	284,921
小計	218,588	889,365
利息及び配当金の受取額	12,721	15,120
利息の支払額	6,069	6,084
助成金の受取額	1,157	671
保険金の受取額	49,729	35,660
災害損失の支払額	11,785	-
法人税等の還付額	1,715	-
法人税等の支払額	20,295	92,677
営業活動によるキャッシュ・フロー	245,761	842,055
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	1,778	1,587
有形固定資産の売却による収入	11,542	-
有形固定資産の取得による支出	159,809	232,463
無形固定資産の取得による支出	91,417	63,458
その他	1,726	146
投資活動によるキャッシュ・フロー	239,736	297,363
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,900,000	1,400,000
短期借入金の返済による支出	1,700,000	1,400,000
リース債務の返済による支出	18,742	10,146
自己株式の取得による支出	0	56,200
配当金の支払額	50,631	50,631
財務活動によるキャッシュ・フロー	130,625	116,977
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	136,651	427,714
現金及び現金同等物の期首残高	2,023,414	1,944,510
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,160,066	2,372,225

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
現金及び預金勘定	2,160,066千円	2,372,225千円
現金及び現金同等物	2,160,066	2,372,225

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月25日 定時株主総会	普通株式	50,631	3.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月21日 定時株主総会	普通株式	50,631	3.00	2023年3月31日	2023年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
食肉加工品	5,957,338	6,772,669
その他	1,204,650	1,158,820
顧客との契約から生じる収益	7,161,989	7,931,489
外部顧客への売上高	7,161,989	7,931,489

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益	5円16銭	18円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	87,064	306,152
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	87,064	306,152
普通株式の期中平均株式数(株)	16,877,003	16,837,002

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月9日

石井食品株式会社
取締役会 御中

千葉第一監査法人
千葉県千葉市

代表社員 公認会計士 田中 昌夫
業務執行社員

代表社員 公認会計士 岸 健介
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石井食品株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石井食品株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。